

【見本】

色素沈着の認められる患者の爪から分離された緑膿菌と背景に関する検討

○長崎 太郎¹、長崎 花子^{2, 3}

■■大学看護学部 感染制御学¹

●●大学医学部 医学科²

△△総合病院 皮膚科³

【目的】

水を頻回に使用する職業従事者やネイル装飾者を中心に爪に色素沈着を起こすグリーンネイルが報告され、その要因として爪における *Pseudomonas aeruginosa* の存在が指摘されている。本研究では、市中の皮膚科医院を受診した患者の色素沈着が認められた爪を対象に、患者背景および爪より分離された細菌について検討を行った。

【方法】

XX 年 XX 月から XX 年 X 月に、爪の色素沈着や爪損傷等の治療のため東京都内の皮膚科医院を受診した XX 名を対象に、ネイル装飾などの爪における人工装着物の有無、基礎疾患などの患者背景の調査および検出菌を調査した。爪試料は爪裏部を滅菌スワブにて拭い採取し、増菌培養および寒天培地にて培養し、検出菌の同定および薬剤感受性試験を行った。

【結果】

対象例のすべての爪において色素沈着が認められ、このうち *P. aeruginosa* は X 例 (XX%) より検出された。その他 *Klebsiella* などの腸内細菌、および *Acinetobacter* 等のブドウ糖非発酵性菌を含むグラム陰性桿菌が X 例より検出され、一部の例ではこれらの菌種が複数同時に検出された。

P. aeruginosa が検出されたすべての例において爪剥離や巻き爪などの疾患が認められ、爪に人工物が装着されていた例は X 例 (XX%) であった。一方、爪から *P. aeruginosa* が検出されなかつた X 例のうち爪における疾患が認められた例は X 例 (XX%) のみで、人工物装着例は X 例 (XX%) であった。

【考察】

グリーンネイルと呼ばれる色素沈着が認められる爪において *P. aeruginosa* および各種グラム陰性桿菌が存在することが確認された。爪における色素沈着は、これらの細菌の爪への付着に加え爪剥離などの爪疾患および爪装飾が誘因となる可能性が示唆された。

次ページにもご入力をお願いいたします。

【見本】

筆頭演者（発表者）情報：

氏名(ふりがな)	長崎 太郎 (ながさき たろう)
所属機関名	■■大学看護学部 感染制御学
所属機関住所	〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号
メールアドレス	jpas2026@c-linkage.co.jp
連絡先電話番号	所属機関・携帯 (どちらかを選択してください。) TEL:095-825-1955

以上、ご入力ありがとうございました。